

【主題名】人間の持つ気高さ
【教材名】風に立つライオン
 (日本文教出版 中学校3年)

発行
 令和2年9月
 中部教育事務所



授業者 佐竹 俊春 教諭 (中土佐町立久礼中学校) **内容項目** D-22【よりよく生きる喜び】

本時のねらい 手に入れられるはずだった幸せを手放し、自分の使命感からケニアの医療現場で奮闘していくことを選んだ主人公の姿から、人間には自分の人生を自分でよりよくしていこうとする気高さがあり、その思いを持って自分の人生を切り拓き、よりよい人生を送っていききたいという心情を育てたい。

指導の要点 あえて逆境の中に飛び込んでいく生き方を選んだ主人公の姿から、自らの力で人生を切り拓くことができ、自分でよりよい生き方を選択することができることを考えさせ、その生き方について考える中で、自分にとってよりよい生き方とは何なのか求め続けるような心情を育てたい。

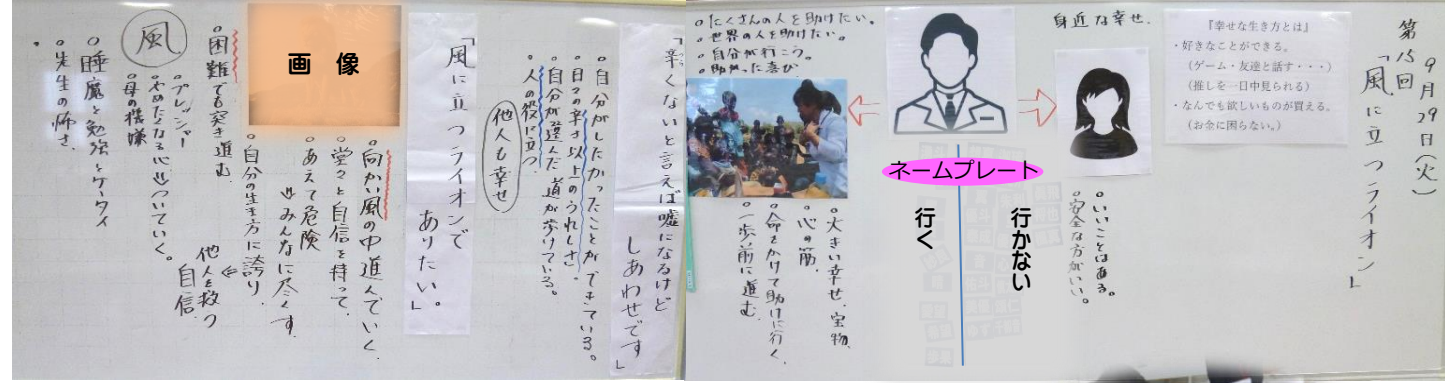
授業を通して引き出したい生徒の考え

- ◇周りに流されない強い意志をもっていくことが大切だと感じた。
- ◇周りに流されずに強い意志や信念をもった生き方をしていきたい。
- ◇自分の人生を自分でよりよいものにしていきたい。

本時の展開	生徒の反応
学習活動と主な発問 ○発問 ◆補助発問・問い返し	
1 幸せな生き方についてのアンケート結果を知る。	・やっぱり何でも自由に行けるのが幸せだと感じる。 ・好きなことが好きなだけできる。
2 「風に立つライオン」映画予告を視聴し、登場人物の立場や背景をイメージする。	
3 自分と主人公を照らし合わせて考える。 ○主人公はなぜケニアに行く道を選んだのだろう ◆患者を助けることは日本ででもよかったのでは？ ○みんなならどっちを選ぶ？【ネームカード・意見交換】 ○「辛くないと言えば嘘になるけど幸せ」と思えるのはなぜだろう。【アンケート結果との比較】	・たくさんの人を助けたい ・助けられたときの喜びを知っているから。 行 く →いつでも手に入る身近な幸せより大きな幸せ 行かない→収入が同じなら、安全を取る ・生活は辛いけどそれ以上の嬉しさが返ってくる ・自分だけでなく、必要とされる人の役に立つ幸せ
4 風に立つライオンのような生き方について考える。 ○「風に立つライオンのような生き方」とはどんな生き方なのだろう。【イメージするライオンの画像提示】 ◆みんなにとっても「風」ってあるんじゃない？ ◆自分にとっての風に立つライオンの姿とは？	・自分の生き方に誇りを持っていくこと ・堂々と自信をもつ・生きがいを自分の自信にしてい ・どんな困難(向かい風)でも突き進むような生き方 ・例えば、携帯を触らずに進路に向けて勉強をがんばろうとするとき。
5 曲を視聴しながら本時の学びを振り返る ○授業で感じたこと、考えたことを書いてください	

生徒による振り返り (一部抜粋)

自分はまだ風に立つフラミンゴくらい。色々不安ですが自分の足で立ちたいです。	幸せの価値は人それぞれ。人のためにと日々考える人になりたい。
私にとっての風は、人と比べてしまうことなので、強い意志と何がしたいのかを決めて立ち向かっていく、主人公のような、綺麗で人のためにも自分のためにも尽くせるような心を持った人になりたいなと思いました。	これまで辛いことがあると逃げたくなったりやめようと思うことが多かった。けど、学校のことだけでなくこれから生活の中で頑張ればよいことがあると思って、やってみようと思いました。
周りに頼ってばかりだけど小さな事から挑戦してみたい	どんな風にも負けないような努力を積み重ねていきたい。
自分がどれほどの風に立ち向かったのかがよくわかりました。だけど、その風に負けないくらいに、これからも立ち向かいます。	風(困難)である自分自身を倒して、次のステージに突き進みたいと思いました。自分を好きになる努力をしたいです。



「風に立つライオン」について、自分自身と照らし合わせて考えたこと、感想、意見を記入する欄と、名前を記入する「ネームプレート」のテンプレートが示されています。

授業づくりのポイント

【教材研究会での論点】
 ! 内容項目や教材に、捉えの難しさがある。
 ! 指導の工夫にさらなるブラッシュアップを。
 ! 幸せ観の追求から、気高さへのアプローチへ再構想。

1 自分自身との関わりで考えるための工夫

- ◆ネームカードを置き「自分ならどうするか」を考える。
- ◆アンケートの活用により、自分ごととして考える。
- ◆日常生活や学校生活を想起しながら自分にとっての「風に立つライオン」の姿を考える。

教材の特質や生徒の実態から「気高さ」の捉えを焦点化し、授業の再構成へ!

2 多面的・多角的に捉えるための工夫 ~ネームカードやアンケートをさらに効果的に~

- ◆ネームカードの立場で意見交換し、幸せを選択するうえでの多様な考え方に会う。

大きな幸せが宝物だと思うから行く。自分自身の財産に残らないのでは？
 身近にもいいことはある。命が危険なのに、そこまでしてケニアに行くんですか？
 助けたい気持ちが心の筋になっている。自分が技術を持っているのなら、助けにいきます。
 愛する人をおいてケニアに行く心がわからない。お金や技術があれば行けるものなのか？
 まずは、一歩前に進むことが大切だから・・・

- ◆アンケート結果と主人公の幸せ観を比較して考えることにより、新たな価値観に出会う。

3 主題に迫るための工夫 ~「幸せの追求」から「気高さへのアプローチ」への転換~
 自分にとっての「風に立つライオンの姿」とは
 自分自身も様々な困難を乗り越える強さをもって生きてきたことに気付かせるとともに、気高く生きることについて、在りたい自分像と照らし合わせながら、自分自身のこれからの生き方に対する考えを深めていく。

評価

- ・学習した内容から自分の生き方を考えこれからの人生をよりよいものにしていくことについて考えている。
- ・自分の生き方について友達の意見から様々な視点で考え、自分の考えを広げより多面的多角的に捉えている。

まとめ

提案▶▶事前研究の在り方「教材研究ワーク」による教材分析

- **指導の要点**・引き出したい児童生徒の考えを明確に持つこと。
- **指導の工夫** ◆評価の視点(自分自身とのかかわり/多面的・多角的)と関連付けて考える。
◆主題に迫るための発問を吟味(深まる問い返しや揺さぶりの着想)する。

協働的に学び合う講座として

提案▶▶事後協議を深めるための視点「授業研究ワーク」による授業検証

- **指導の工夫(◆)は効果的に働いたのか** ◇生徒の反応 ◇反応を引き出した教師の手立て